１　作　　物

項　　　目	作　　　業　　　内　　　容
	（今月の作業のポイント） ○普通期水稲の管理 ○短期あきたこまちの収穫 ○大豆の管理 ○台風対策 普通期水稲は、出穂期～登熟期を迎える。 ８月 17 日付の高松地方気象台発表の１か月予報によると、気温は平年より高く、降水量・日照時間は平年並の見込みである。
（１）普通期水稲の管理	ア　水管理 登熟期に湛水状態のままで管理すると根の活力を低下させて根腐れを招く恐れがある。出穂以降 30 日間は間断かん水や浅水管理を行い、根の健全化に努める。また、登熟期（特に初期）の稲は高温に弱いため、高温時のかけ流しや夜間かん水により地温低下を図る。登熟中期以降からは徐々に水量を少なくし、収穫前５～７日を目安に落水する。高温が続く場合は、できるだけ収穫間際まで通水し、根の活力を保持する。落水後に晴天が続くようであれば、立毛中の胴割米の発生を防ぐため、走り水かん水を行い土壌の過乾燥防止に努める。 イ　病害虫防除 水稲（普通期）の斑点米カメムシ類は、病害虫防除所による７月 31 日の病害虫発生予報（８月）において、発生量は「やや多～多」とされている。出穂時の定期防除を必ず実施し、乳熟期～糊熟期（出穂後 10～15 日）に地域の防除指針に従い防除を行う。特に多発ほ場では、その後の発生に注意し、さらに７～10 日後に追加防除する。トビイロウンカは、斑点米カメムシ類と合わせて出穂期防除を必ず実施する。紋枯病については、穂ばらみ期の要防除密度となる発病株率 15～20％を目安に防除を行う。いずれの防除対応においても株元に薬剤が十分届くよう丁寧に散布する。
（２）短期あきたこまちの収穫	収穫適期は、生育中庸な株の最長稈黄変籾率が 85％、出穂期からの日数が 33～38 日、出穂後の積算温度が 850～1,050℃に達した頃である。刈遅れを防ぐには、適期になったら早めに刈取

項　　目	作　　業　　内　　容
	りを開始し、適期内に終えることが大切である。なお収穫の際は、高水分刈り（籾水分 30％以上）を避けるとともに、収穫後は速やかに乾燥する。
（３）大豆の管理	ア　水管理 大豆は水分要求量が高い作物で、開花期以降に水分が不足すると落莢や不稔莢が多発して収量が低下する。そのうえ、着莢数の減少により、茎葉部の老化が遅れ「莢先熟」を招くことがあるため、粒肥大期まで積極的にかん水する。なお、高温時のかん水は根傷みを起こすので、朝夕の涼しい時間に短時間で実施する。 イ　病害虫防除 写真１　大豆の青立ち 紫斑病は子実肥大期の高温・多雨条件で多発し、子実に紫色の斑紋が発生する。防除は、開花後 15～50 日の間に１～３回行う。特に開花後 30 日頃（子実肥大中期）の防除効果が高い。カメムシ類は子実を吸汁加害するため、落莢や青立ち（写真１）、奇形粒を発生させ、収量・品質を低下させる。防除は、開花終期～子実肥大期に２回程度実施する。
（４）台風対策	９～10 月に襲来する台風は大型なことが多く、水稲や大豆への影響が大きいため、事前・事後対策を徹底する。 【水稲の事前対策】 冠水害に備えるため、排水路や排水ポンプ、水路などを事前に点検する。台風が接近してからの点検は、川の増水等により人命に危険があるため、必ず降雨前に済ませておき、決して増水中の川や水路に近づかない。 雨を伴わない台風の場合、乾風による脱水症状「青枯れ」が発生し、著しい減収となるので、深水にしておく。 湿田や排水不良田では、うら溝上げ等を行い、かん・排水が容易にできる状態にしておく。

項　　　目	作　　　業　　　内　　　容
	【水稲の事後対策】 ① 浸・冠水田対策 　泥水等が流入した水田では、早急に排水に努める。 　海水が流入した場合、早急に排水し、速やかに真水をかけ流す。 ② 倒伏した水稲や、潮風害に遭遇した水稲の対策 　収穫間近に倒伏した水田では、水稲はそれ以上の登熟促進が望めず、穂発芽もしやすいので速やかに収穫する。 　登熟期に倒伏した場合、早急に落水して土壌及び稲体の乾燥に努めるとともに、その後の雨水が速やかに排水できるよう、排水路を整備する。 　出穂期で、倒伏はしていないものの沿岸部の水田で潮風害に遭遇した水稲は、真水のかけ流しや、茎葉を真水で洗い流す。 ③ 水管理 　登熟期後半は徐々に水を少なくするが、土壌が乾燥すると心白や乳白粒の発生で品質が低下するので、必要以上に乾燥させない。 　落水期はできる限り遅くして登熟を促すが、時期は土壌や降雨状態等から総合的に判断する（収穫５日前を目標）。 ④ 収穫・乾燥・調製 　台風災害を受けると青米や屑米が多くなるため、1.85 mm の篩い目で入念に選別・調製し、整粒 80%以上に仕上げる。 【大豆の事前対策】 　事前の排水対策を万全にし、ほ場に雨水が長時間滞らないようにする。 【大豆の事後対策】 ① 排水 　滞水したほ場では速やかに排水させる。 ② 病害虫防除 　子実肥大期であれば、紫斑病発生防止のため台風通過後に薬剤散布を行う。

（作成　農林水産研究所）